

ロシア

成長の勢いは弱まる

2012年の実質GDP成長率（1次速報）は前年比3.4%となり、過去2年間の成長率を下回って、減速傾向が明らかになってきた。ロシア経済のけん引力であるエネルギー資源輸出の伸びが小さくなっていることが大きな要因と思われる。

2012年のロシアの輸出総額（税関統計ベース）は、5,247億ルーブルで、対前年比1.6%増の微増にとどまった。エネルギー資源に大きく依存した輸出構造は変わらず、主な輸出品目は原油（輸出総額の34.5%）、石油製品（同19.7%）、天然ガス（同12.0%）などである。これに石炭、電力などを加えたエネルギー類全体で、70.4%を占めた。この中で、原油、天然ガスの輸出額は減少した。いずれも輸出量が減少したことが要因である。例えば、ロシア原油の指標価格であるUralsの2012年の平均価格は1バレル110.5ドルで、前年（109.3ドル）をわずかに上回ったのに対して、輸出量は1.8%減少したため、結果として輸出額が0.5%減少した。天然ガスの減少幅はより大きく、輸出量で4.3%、輸出額で1.8%、それぞれ減少した。主として西欧向けの天然ガス輸出が減少した。欧州経済が不安定であったことに加えて、欧州が供給源の多様化を図ったことも影響している。

外需の力が弱い中、内需の役割が相対的に大きくなっている。しかしながら、小売売上高や固定資本投資はともに、前年よりも成長率を下げている。リーマンショック以前の消費ブームのような状況とは様相が異なっている。また、ロシア中央銀行が9月に政策金利を0.25%引き上げて8.25%にしたことが、投資意欲を冷やした面もある。さらに、農業生産面では、前年が著しい豊作であったことの反動も現れた。こうしたことから、経済成長率は年後半に減速した。

複雑化する天然ガス輸出をめぐる状況

2013年2月13日、プーチン大統領が出席して、「エネルギー産業の発展と環境保全に関する委員会」が開催された。

席上、プーチン大統領は、現在はガスプロム社が独占している天然ガス輸出のうち、液化天然ガス（LNG）輸出を段階的に自由化することを検討するよう述べた。また、ロスネフチ社のセーチン会長は、サハリンや北極海での天然ガスを輸出することを念頭に置いていることを発言した。

ロスネフチは、子会社を通じて、サハリン1プロジェクトに参加している。同プロジェクトには、日本のSODECO、アメリカのエクソンモービル、インドのONGCも参加しているが、天然ガスの輸出は実現していない。かつては、北海道経由で本州までのパイプライン建設が検討されたり、その後大陸経由で中国へのパイプライン輸出なども検討されたりしたが、いずれも実現していない。現在では、サハリン～ハバロフスク～ウラジオストクパイプラインを通じて、国内供給がなされているのみである。

最近では、SODECOを構成する伊藤忠商事や石油資源開発などがガスプロムと共同で、ウラジオストクLNG基地の共同FSを実施する動きもあった。このプロジェクトが実現すれば、サハリン1の天然ガスがウラジオストクからLNGで輸出されるものと想定されていたが、上記のセーチン氏の発言からすれば、ロスネフチが主導して別途LNG輸出を行う可能性も出てきたと言える。同じ2月13日には、ロスネフチとエクソンモービルがLNGプロジェクトの実現可能性について共同で検討することなども含めた覚書を交わした。

サハリン州政府は、プリゴロドノエにあるLNG基地の拡張を要請している。さらには、パイプライン方式が最も経済的だとの意見は日本国内にも根強くあり、天然ガスを誰がどのような形で輸出するのかを巡る状況は複雑化してきている。

欧州でのエネルギー供給源多様化という構造変化が進む中、欧州景気が回復しても、欧州向けの輸出量が伸びていくかは予断を許さない。勢い、アジア向けの輸出に力が入る。状況は複雑化しているが、ロシア側各社が競って売り込みをかけてくるような状況は、日本にとって有利な条件を引き出すための好環境とも言える。

（ERINA調査研究部主任研究員 新井洋史）

（対前年同期比）

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2012				2013		
								1Q	2Q	3Q	4Q	10月	11月	12月
実質GDP	8.2	8.5	5.2	▲7.8	4.3	4.3	3.4	4.9	4.0	2.9	—	—	—	—
固定資本投資	16.7	22.7	9.9	▲16.2	6.0	8.3	6.7	16.6	10.2	7.3	1.3	4.9	1.2	▲0.7
鉱工業生産高	6.3	6.8	0.6	▲9.3	8.2	4.7	2.6	4.0	2.3	2.5	1.7	1.8	1.9	1.4
小売売上高	14.1	16.1	13.5	▲4.9	6.3	7.0	5.9	7.6	7.0	4.8	4.5	4.0	4.4	5.0
実質可処分所得	13.5	12.1	2.3	2.1	4.2	0.8	4.2	1.6	4.1	4.6	5.6	3.4	7.8	5.6
消費者物価*	9.0	11.9	13.3	8.8	8.8	6.1	6.6	1.5	3.2	5.2	6.6	5.6	6.0	6.6
工業生産者物価*	10.4	25.1	▲7.0	13.9	16.7	12.0	5.1	3.0	0.4	9.4	5.1	7.6	6.3	5.1
輸出額(十億ドル)**	301.2	351.9	467.6	301.8	397.1	516.7	524.7	131.5	129.9	125.0	138.4	46.2	45.1	47.1
輸入額(十億ドル)**	137.8	199.7	267.1	167.5	228.9	305.8	312.6	68.5	76.8	81.4	85.9	29.8	27.8	28.3

*前年12月比。

**税関統計ベース。

***斜体は暫定（推計）値。

出所：『ロシアの社会経済情勢（2013年1月号）』ほか、ロシア連邦国家統計庁発行統計資料